

様式 1

平成 17 年度茨城大学社会連携支援経費申請書

茨城大学長 殿

申請者 所属 農学部
代表者氏名 松田 智明

下記の本年度の社会連携支援経費を申請いたします。

1. プロジェクト名 (40 字以内)

茨城大学・阿見町の包括連携の体制・構想整備

2. プロジェクトの連携先と連携内容 (別紙可)

連携先：阿見町 (農学部所在地の自治体)

連携内容：

【方法】「茨城大学・阿見町包括連携協定」の締結，記念行事の開催および「地域連携フレーム (基本構想) の作成。

【内容】阿見町と茨城大学との間で「包括連携協定」を締結し，記念行事を開催する。「協定」締結に先立ち，町内の団体・組織との多様な連携を視野に入れた，複合的な「地域連携フレーム」を共同作業により作成する。さらに，社会連携のための具体的な共同実施可能な事業を選定し，次年度から着手できるような準備作業・体制整備等を行なう。

【計画】教員個人，研究室単位で積上げられてきた地元の調査・環境改善，社会教育・専門知識の提供・ボランティア，大学施設の提供などの具体的な諸活動の実績・事例を，大学の地域連携活動として体系的に見直し，さらに阿見町が抱える地域的な個別課題を町・地域住民とともに再評価することで，阿見町，大学がそれぞれ担う機能の抽出を含む「地域連携フレーム」を，町・大学共同でまとめる。具体的には，学内でのリストアップ・分類，町との協議 (月 1 回程度)，地域住民を交えた現地調査・ワークショップを予定し，この作業には 5 ヶ月の期間を充てる。

続いて，作成した「地域連携フレーム」に基づき，さまざまな地域連携活動を円滑に進めるための基本的な枠組みとしての「阿見町・茨城大学包括連携協定」を今年度中に締結し，あわせてシンポジウム等の記念行事を開催する。

さらに，次年度までに具体化でき，次々年度までに一定の成果が挙げられる連携事業を選定し，基本的な内容の検討を町側と共同で実施する。この作業は 2~3 ヶ月を要すものとし，主に町担当者および住民などの利害関係者との個別討議・ワークショップにより進める。

【効果】地域を理解し，地域の財産に気づき，「あるもの」を活用する調査・デザイン手

法を提示・整備するために、中核的な役割を演じることが地域連携を進める上で大学に求められている。そのためには、理念や観念的な議論を越え、より具体的な地域の資源や活動の実績などを再発見・評価し、地域の過去・現在・未来や周囲との関係を、行政、住民、その他多くの利害関係者それぞれの言葉で表現し、共有する仕組み、あるいはそれに必要になる調査・デザイン・合意形成についての方法論を、できるだけ地元の具体例をベースに、大学・行政が核となって考え、創りあげてゆくことが不可欠である。

本プロジェクトは、このような地域連携のアプローチを、地元（農学部所在地）を対象に具体的課題・活動事例を再評価することで検討しようとするものであり、今後他自治体への拡大的適用や方法論としての一般化に対して期待が持てる。同時に、町と地域連携フレームについて合意が得られること、地域連携の体制整備が行なえることで、将来にわたって各種連携活動をスムーズに起動、運営することが可能となる。

申請分野	1 地域の教育力 2 地域環境形成、自治体との連携 3 産官学連携 4 学術文化 5 その他の地域との連携
------	---

3. 本プロジェクトにかかわるこれまでの経緯・実績（別紙可）

農学部と阿見町の連携は、教員の町委員会メンバーとしての参加、小中学校を対象とした合同調査、ヤーコンや地域農業の勉強会の開催などとして、個人、研究室、研究グループ単位で、長期にわたり多くの教職員が密接に関わりながら進められてきた。

しかし、2002年以前までの連携活動は、個別的なものが多く、学部単位の連携は留学生を介した国際交流活動の共催、1997年から始まった阿見町姉妹都市であるスーペリアル市および農学部姉妹校のウィスコンシン州立大スーペリアル校との数回の交流事業の共同実施にとどまっていた。ところが、2003年から開始された農学部公開講座「家庭菜園の栽培技術」への町の支援、昨年度の国際交流シンポジウムの共催、町後援による茨城大学公開シンポジウムの実施（添付資料参照）などのように、2003年度以降は従来の個別的な連携に加えて学術面、環境改善活動などにおける、学部と町の組織としての連携事業がしばしば実施されるようになってきている。

このような個別の連携活動の積み重ねと最近の実績に基づき、昨年度、非公式ではあるが、阿見町町長と農学部長との懇談において「阿見町・茨城大学連携協定」に関する話題が取り上げられた。懇談では、「協定」締結に当たって今までの連携実績を問題点、制約などを含めて再評価するとともに、新たな連携の内容や形態を包括的な連携のあり方として整理し、相互に認識することの重要性が話し合われた。

本プロジェクトは、この話し合いの方針を積極的に、かつ円滑に推進するための取り組みとして企画されたものであり、さらに将来にわたって多方面での連携を創出し、具体化するための枠組み、体制、メニューの整備を意図しているものである。

4. プロジェクト参加者（含む申請者）

氏名	学部・学科等	職名	分担内容
松田 智明	農学部	学部長	全体統括
太田 寛行	農学部	教授	連携活動の見直し，課題抽出
小林 久	農学部	助教授	地域連携フレームの検討・作成
小松崎将一	農学部	助教授	ワークショップ企画・運営
中島 紀一	農学部	教授	連携協定原案の作成と調整
牧山 正男	農学部	助手	現地調査企画・運営
安江 健	農学部	助教授	シンポジウム企画・運営
大崎 誠	阿見町	総務部長	町側調整（担当者会議の設定，行事の広報等）